

開講専攻	授業科目	担当教員	必修 選択 の別	単位数
看護学 ----- 5セメスター 木・4, 5	母性看護方法論	跡上 富美	必修	2
授業題目	女性を中心とした家族に対する支援（生殖に焦点をあてて）			
授業科目の目的・概要及び到達目標等				
<p>学習の目的</p> <p>妊娠分娩産褥各期にある女性と新生児の特徴について理解し、特有な看護技術を習得しながら新しく家族を迎える人々に対する看護支援について理解することができる。また、不妊家族の置かれている背景とその特徴を理解し、必要とされる看護について考えることができる。</p> <p>学習の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の特徴を理解し、周産期場面で展開される看護支援方法について述べることができる。 ・周産期場面で必要とされる特有の看護技術を実施することができる。 ・不妊家族の特徴を理解し、必要とされる看護支援について述べるができる。 				
授業計画				
<p>第1回（4/13） 周産期における看護支援（妊娠期の看護）</p> <p>第2回（4/20） 周産期における看護支援（分娩期の看護）</p> <p>第3回（4/27） 周産期における看護支援（産褥期の看護）</p> <p>第4回（5/13） 新生児の看護1</p> <p>第5回（5/20） 新生児の看護2</p> <p>第6回（5/27） 不妊治療を受けるカップルの特徴と看護支援</p> <p>第7回（6/1） 演習1回目（第1グループ）</p> <p>第8回（6/8） 産褥期の看護過程演習</p> <p>第9回（6/15） 産褥期の看護過程演習</p> <p>第10回（6/29） 演習2回目（第2グループ）</p> <p>第11回（7/6） 女性疾患患者への看護支援</p> <p>第12回（7/13） 女性特有の疾患に関する看護過程演習</p> <p>第13回（8/1） 女性特有の疾患に関する看護過程演習</p> <p>第14回（8/3） 筆記試験</p> <p>第6回，第10回の演習では、妊婦健診，新生児の沐浴など実習に必要な看護技術の演習を行う。各グループの構成、授業中に周知する予定である。</p> <p>なお、上記の日程は変更することもあるので、演習日程変更は授業内で発表する。</p>				
成績評価の方法及び基準				
<p>筆記試験と各種演習後の提出物などにより総合的に評価する。</p> <p>筆記試験と演習提出物、演習態度の割合はそれぞれ65%，25%，10%とするが、それぞれに欠席、未提出があれば評価の対象とはしないので、注意すること。</p>				
教科書・参考書				
<p>女性健康科学原論で用いている「女性生涯看護学」を使用する</p> <p>参考図書・文献については、授業中随時提示する予定</p>				